

1 明月入懷	(めいげつにゅうかい)	英傑の生まれる瑞祥をいう、明朗な有り様 又、師匠の恩などの深く厚い事
2 自彊不息	(じきょうふそく)	【易経】自ら努め励んで怠らぬ
3 一字千金	(いちじせんきん)	一字が千金の価値を持つ程文字または文章が優れている
4 筆端造化	(ひつたんぞうか)	文章の書き方が、万物を造り出して育てる、造物主
5 下筆有神	(かひつゆうしん)	【杜甫】「読書万巻を破り、下筆有神あるが如し」とある
6 溫厚和平	(おんこうわへい)	物やさしく篤実、和やらいで穏やかな事
7 公直無私	(こうちよくむし)	公正で私心の無いこと
8 独歩天下	(どっぽてんか)	天下に独歩する、優れて天下に追随する者の無い事
9 中正無私	(ちゅうせいむし)	至中至誠の道を守り、私する事がない
10 独坐觀心	(どくざかんしん)	独坐して、心に邪念の起らぬ様努める
11 風不鳴條	(ふうふめいじょう)	条は枝ともかく。風が吹いても枝を鳴らす程強く吹かない（上の句）
12 雨不破塊	(あめつちくれをやぶらず)	雨が静かに降って塊を破らない。天下泰平の事（下の句）
13 物外遊	(ぶつがいゆう)	万物のひしめく世間の外で遊ぶ
14 酔如愚	(すいによぐう)	何もかも忘れて酒に酔う
15 天長地久	(てんちょううちきゅう)	【老子】地は物と争わないから万物が之に帰し、長久である
16 莫須有	(ばくすゆう)	有るべき事なからんや、無いとは限らぬ半信半疑の言葉
17 千歳寿	(せんさいじゅ)	長壽なこと
18 寿旦昌	(じゅしてかつさかんなり)	寿命が長く、栄える事
19 南山之寿	(なんざんじゅ)	南山は周の都「終南山」詩経に南山寿の如く齋けず崩れずとあるより転じて、長寿をことぶく言葉
20 無一物	(むいちぶつ)	【禅林】何も無い事、無きが故に無尽蔵する事を云う
21 日月斎光	(じつげつさいこう)	日、月、光に等し アット言う間に過ぎてしまう事
22 天網恢恢	(てんもうかいかい)	天の網は広く大きい、網の目が粗い様だが悪はもらさない
23 疎而不失	(疎なれど失わず)	【老子】長い目で見れば良い人は必ず幸いを受け、悪人は不幸を免がれない
25 孤掌難鳴	(こしょうならしがたし)	【水滸伝】片方の手だけでは鳴らない。相棒が居ないと事は成就しない
26 至仁無親	(しじんはしんなし)	【莊子】最高の仁愛は親疎愛憎を超える
27 達人大觀	(たつじんたいかん)	道理に精通した人は、物事を高い所から見る。
28 英雄欺人	(えいゆうぎじん)	英雄が策略をめぐらして、人の意表をつく
29 水到渢成	(みずいたりて、きよなる)	水が流れて来れば自然にみぞが出来る、時が到れば事の成就するたとえ
30 拈華微笑	(ねんげみしよう)	釈迦の説法を迦葉一人がその真意を悟り、微笑した故事から以心伝心の妙を云う
31 大道無門	(だいどうむもん)	大道は無象無形で人を拒否する門闇もないが参入しがたい

32	千差有路	(せんさゆうじ)	物事の種類や様子に様々な路がある。
33	知足不辱	(ちそくふじょく)	足るを知れば辱められず。分を守る者は辱めを受けない
34	天地不仁	(てんちふじん)	天地が万物生成化育するのはその自然にまかせて仁道などを行わない、不仁と云う
35	精思力践	(せいしりきせん)	深く細かく思い、力一杯実践すること
36	遇事剛果	(ぐうじごうか)	事に当たって、心から強くて思い切りが良い事
37	縁木求魚	(えんぼくきゅうぎょ)	【孟子】木によって魚を求む、方法を誤れば事は成就しない喻
38	奇貨可居	(きかおくべし)	珍しい商品を求め機を見販売し大儲けをする
39	木石心	(ぼくせきしん)	万物万象を仏心有り、つまり真理と見る立場から木と石を例として用いた
40	人道邇	(じんどう、ちかき)	【孟子】深遠な道も実は極手短かに、或いは存在する。 左伝：人間の道こそ身近な大切な事で有る。
41	静自適	(せいじてき)	静かさが自ずから叶う
42	能藏拙	(のうぞう せつ)	稚拙感をよく内蔵している
43	放下便是	(ほうげびんぜ)	身に付けた技術を手放す事が前に進む事につながる。
44	無寒暑	(むかんしょ)	【禅語】寒い時は寒さを、暑いときには暑さに成りきる、徹しきる事
45	内厚質正	(ないこうしつせい)	内厚くして、正を質す。心を豊かにして是非をただす
46	国士無双	(こくしむそう)	昔から今まで並ぶものが無いさま、天下第一の優れた人物
47	縱心物外	(じゅうしんぶつがい)	世俗の外で思うがままに振る舞う
48	振衣濯足	(しんいたくそく)	着物を振ってけがれを祓い、世俗を超越する喻
49	邮情山趣	(そんじょうさんしゅ)	村のあり様、山の趣
51	不落因果	(いんがはおちず)	人事は因縁と果報による
52	無依道人	(むいどうじん)	依存することなく、自分の道を進む事
53	錦上鋪華	(きんじょうほか)	うるわしい上にうるわしさを加える
54	清風明月	(せいふうめいげつ)	【李白】初秋のすがすがしい感じ
55	牛刀割鶏	(ぎゅうとうかっけい)	牛刀を以って鶏を割く、小事を処理するのに大器を用いる喻
56	至仁無親	(じじんはしんなし)	【莊子】最高の仁愛は親疎愛憎を超る
57	二人同人	(ふたりどうしん)	友情の極めて固い事深いまじわり
58	其利断金	(そりだんきん)	【易経】金属を断ち切る義
59	冬日可愛	(とうじつをあいすべし)	冬の日の光は温暖で愛すべきである=温和な人のたとえ
61	巧言亂德	(こうげんらんとく)	巧言徳を乱す、巧みな言葉は時としてその徳まで乱す
62	輝光日新	(きこうにっしん)	【易経】光輝き、日 新た成り
63	穆以溫	(ぼくをもっておだやか)	穆をもって温か。和らぎ穏やかな事

64	景雲飛	(けいうんひ)	景雲は瑞相の雲、目出たい雲が空に広がる
65	鳳鳴朝陽	(おうめいちょうよう)	鳳凰が山の東に鳴く。天下太平の目出度いしるし
66	冷暖自知	(れいだんじち)	【禅語】冷暖は自分で知ることが出来る 実感こそ頼りである
67	華氣隨酒	(かきずいしゅ)	春、華の香り、酒にしたがう
68	鶯歌和人	(おうかわじん)	鶯の声は人をなごます
69	光明藏	(こうみようぞう)	【禅林】無明を破り真如の光を輝かす智慧、自己の本心を云う
70	無一物	(むいちぶつ)	心が虚無空明で、一物も存せぬ事
71	心広禮胖	(心広く体、ゆたかなり)	心の正しさは誠にこれを求める。
72	拔山蓋世	(ばつざんがいせい)	【史江】項羽の言 その時代を蓋い包む、気概や才能の大きい事
73	無風有浪	(むふうゆうは)	春の海の、のどかな様
74	春波万里	(しゅんぱばんり)	春の海の、のどかな様
75	綠木求魚	(えんぼくきゅうぎょ)	【孟子】木によって魚を求む、方法を誤れば事は成就しない喻
76	多岐亡羊	(たきぼうよう)	逃げた羊を追い道の多岐で見失う故事から、学問の道も多岐に渡ると真を得る事が難しい喻え
77	野酌送春	(やしやくそうしゅん)	野原で酒を飲み行く春を惜しむ
78	醉紅自暖	(すいこうじだん)	酒を飲んで、自ら暖まる
79	外師造化	(がいしそうか)	自然に師事し内心に修業すれば善に成る
80	中得心源	(ちゅうとくしんげん)	写真を撮るように自然を写しても人間の物にならない、心に写してみて心源を得る
81	奇珍異寶	(きちんいほう)	貴重でまれな人物や物事を言う言葉
82	以形寫神	(いけいしやしん)	現実的な形だけでなし、精神的な性質を追求する
84	驟雨急風	(しゅうううきゅうふう)	鋭い雨と風。大規模かつ急速を表す
86	湖光雲淨	(ここううんじょう)	湖の反射、雲がゆっくり棚引いている 自然のひとこま
87	火樹銀華	(かじゅぎんか)	華麗な灯籠と花火
88	海角天涯	(かいかくてんがい)	はるか彼方に遠く離れている事、最果ての地
89	雲山遠鐘	(うんざんえんしょう)	遠くの山から鐘の音が聞こえてくる
90	衆山神秀	(しゅうざんしんしゅう)	気高く神々しい多くの山の事
91	渾厚華滋	(こんこうかじ)	大きくて深みの有るつややかなはな
97	雲高氣靜	(うんこうきせい)	空は澄み渡り気も穏やかである、秋の形容
98	秋物感人	(しゅうぶつかんじん)	秋の景物が人の心を動かし、感動させる
99	遠山如画	(えんざんによが)	とおき山、絵のごとし
100	賞心不盡	(しょうしんふじん)	賞心=心楽しいこと尽きることなし

101	氣若幽蘭	(きじやくゆうらん)	幽蘭の芳あいの様に気が若い
102	栄耀秋菊	(えいよくしゅうきつ)	秋の菊よりも鮮やかに輝く
103	言為心聲	(げんいしんせい)	声・表情・振る舞いは心を表す
104	以形寫神	(いけいしやしん)	神とは心のこと
105	韜光養德		自己の才知を表わさず心の徳を養う 才徳を隠して人に知らせない
106	鉤深致遠		深遠な理を捕らえ、極める
109	獨坐觀心		独坐して、己の内心を観照す。
110	寂然不動		精神の安らかに定まっていること
111	退水藏鱗		閉地に隠退することを、魚に喩えた言葉
112	隨處作主		【臨済錄】どこで在ろうと主体的に行動すれば立つ所いずれも眞実の道につながる
113	百花斎枝		多くの花が一斉に咲く、形式や風格は別であるが一斉に発表される
114	萬木爭榮	(ばんぼくそうえい)	生命力の一場面
115	深造自得	(しんぞうじとく)	深く道に達し、自分で会得する
117	湖色春光	(こしょくしゅんこう)	湖面が春の光でキラキラ光っている様
118	梅妻鶴子	(ばいさいかくし)	妻を取らず、俗世を離れ
120	野無遺賢		民間に残された賢士が無いほど、人材をあまねく登用する
121	無信不立	(むしんふりつ)	【孔子】人民に信頼が無ければ政治は成り立たない
122	虎頭燕頷		虎の如き頭、燕の如きあご、達人の異想
123	金声玉振		【孟子】才知と人徳とが見事に調和していること、素晴らしい人格に大成する喻
126	寬仁厚徳		為政者は大らかに慈しみ徳は厚くなければ成らない
127	禮尚往来		礼儀は一方的でなく、双方で交換する事が大切である
128	光明藏	(こうみょうをぞうす)	光輝く未来を持っている。
129	莫忘想	(ばくもうそう)	【禪林】妄想は虚妄の思想であって、下らぬ事を考えるなと言う機語。
130	図書獨娛	(としょどくご)	画を看、書を一人で楽しむ事。
131	枕書高臥		【菜根譚】書物を枕にして楽しく寝ること
134	遊戲三昧	(ゆうぎざんまい)	仏の境地に徹して、何ものにも捉われず自在で有る事。
135	智圓行方	(ちえんこうほう)	全てを知り、行いは正しい。
136	窓下有清風	(そうかせいふうあり)	窓の下は、そよそよと清清しい風が吹いている
137	玩物喪志	(がんぶつそうし)	【書経】物をもてあそべば志を喪う、好みに従って外物を愛玩すると事の本質を失ってしまう
138	心凝形釋	(しんぎけいしやく)	心気集注して自己の形体を忘れる 大自然と一致する

140	神遊天地	(しんゆうてんち)	体から精神が抜けて、天地を楽しむこと
143	乘風破浪	(じょうふうはろう)	風に乗り浪を破る 風に乘じて万里の波濤をのりきってゆくさま
144	冰壺玉鑑	(ひょうこぎょつかん)	心が極めて潔白な形容・鑑は鏡です
145	圖南鵬翼	(となんほうよく)	南極を目指して羽ばたく鵬 大事業を計る人物
146	松菊猶在		節義の高い人物はなお残っている。
147	萬法唯心	(ばんぽうゆいしん)	あらゆる物は心を離れては存在しない、心は全ての根元である
149	清風出袖	(せいふうしゅつしゅう)	袖より清い風が出てて
150	明月入懷	(めいげつにゅうかい)	明月の懷に入る 149・150 組印 英傑の生まれる瑞祥を言う (唐李嗣真より)
153	雲行雨施	(うんこううせつ)	雲が流れ雨と成って恩恵を施す
155	千差有路	(せんさゆうじ)	色々な路がある
156	大道無門	(だいどうむもん)	大道も至道も同じ、大道は無象無形で拒否する。155・156 は対句・・・仏の大道に入るには一定の門は無い、色々どの路にも通じ自由に独歩できる
157	不恥下問	(ふちかもん)	恥じずに下の者に尋ねる。
158	心廣體胖	(しんこうたいはん)	【大学】心広く穏やかならばおのぞと体ものびのびくつろぐ
160			
161	漁遊釜中	(ぎょゆうふちゅう)	煮られようとしている釜で泳ぐ魚 危険が眼前に迫るのを知らない喩
162	鐵心石腸	(てっしんせきちょう)	心が鉄石の様に堅く動かないこと
163	神武不殺	(しんぶふばつ)	神の如き武威は何者をも殺さずして勝つ。
164	民生在勤	(みんせいざいきん)	【左伝】民生の根本は勤労にある
165	栖遲一邱	(さいちいきゅう)	役人には付かず、遊息して居ること
166	雪引詩情	(せついんじょう)	白居易の詩
167	仰不愧天	(ぎょうふかいてん)	仰いで天に愧じる・天に対しても恥ずる事は無い、清廉潔白
168	俯不怍人	(ふふさくじん)	167 の対句
169	探躡牽隱		隠れて明らかで無い物を究明して明らかにする・幽深得がたき物を探り、隠れたものを求める。
170	懲忿窒欲		君子は自分の怒りの気持ちを懲らしめ、欲望を起こさぬ様にする
171	觀心證道		【菜根譚】心を觀、道をあかす 心に道をさとる
172	六經注我		経書は我心の理を読釈説明する
177	千年桃核	(せんねんとうかく)	【槐安国語】千年待てども、芽の出ぬ桃の種・どれだけ骨を折っても物にならぬ事
185	吳越同舟	(ごえつどうしゅう)	仲の悪いもの同士が同席する事
186	溫柔敦厚	(おんじゅうとんこう)	【礼記】穏やかに素直に優しくわだかまり無き事

189	温慈惠和	(おんじけいわ)	ものやさしく憐れみ深く、恵み柔らかく
190	棲恬守逸		【菜根譚】超然たる心境
191	心凝形釋		【柳宗玄】心が其の物に引きつれられて、凝まり身体がとろけて自己を忘れる
192	晨露夕陰		【礼記】朝の露、夕べの木陰
193	樹木方盛	(じゅもくほうせい)	夏の季節、樹木は夏になり盛んに茂る
194	妙造自然	(みょうほうしぜん)	妙は自然に造り（いたり）
196	心地乾淨	(しんじかんじょう)	心を洗いさっぱりすること
197	物我両忘	(ぶつがりようぼう)	【菜根譚】物と我と二つながら忘れる、虚静なる心
198	秋夜賞月	(しゅうややしょうげつ)	秋の夜、月を賞する
211	祥光滿室	(しょうこうまんしつ)	めでたい光が部屋にみつる
212	瑞氣盈門	(ずいきしゅうもん)	目出度い「氣」が、家門に満つる
213	梅傳春信	(ばいでんしゅんしん)	梅の便りが春の便りである
215	好古敏求	(こうこびんきゅう)	【論語】古学を好み 修養に励む
216	有備無患	(そなえあればうれいなし)	平素備えをしておけば、心配は無い
217	松蒼柏翠	(しょうそうはくすい)	【菜根譚】松柏は寒気に遭っても緑を変えない、操志の堅い形容
218	愚公移山	(ぐうこういざん)	【史記】愚かな者でも、コツコツやれば山も動かす
219	柔吾所好	(じゅうごしょこう)	吾、好む所に従う
220	以文會友	(いぶんかいゆう)	文をもって友を会す
221	柳綠花紅	(りょくえんかこう)	色も形も違うがこれが自然の真の姿である
222	蒿談娛心	(こうだんごしん)	【楽広】俗事を離れた話に心を楽しむ
223	殺身成仁	(さつしんせいじん)	【論語】たとえ、吾が身を捨てても仁を全うする
224	勞而不伐	(ぼうしふばつ)	【易經】実績をあげても誇らない
225	思無邪	(おもいよこしまなし)	【詩經】心正しく、邪心の無いこと
226	一生稽古	(いしょうけいこ)	人生は稽古あるのみです
227	吉慶如意	(きっけいによい)	めでたい事が思う様に成る
228	春可樂	(たのしむべし)	春花咲く時に楽しむべきである
229	墨縁居	(ぼくえんきよ)	書の道のつながり
230	知足者富	(ちたるものはとむ)	【老子】自己の分限に満足できる者は心が富む
231	天馬行空	(てんまぎょうくう)	自由奔放で何物にもとらられない事を云う
232	考槃	(こうはん)	【詩經】気の向くまま山水の間に遊び楽しむ
233	家中有寶	(かちゅうたからあり)	宝は自分自身の中にある。

236	蘭交	(らんのまじわり)	心を同じくする者の言葉は、蘭の様に芳しい
237	同符合契	(どうふごうけつ)	割り符を合わせ、意気を投合する
238	喫茶去	(きっさこ)	普段のままの気持ち
301	何處求心	(かしょきゅうしん)	【禪語】自分の心（しん）を見つめなさい
303	眼矇朧	(がんろううぼう)	廻りの物がはっきり見えない様
308	四海浪平	(しかいろうへい)	四方の海は浪もなく穏やかである・・道元の言葉
310	鉄樹	(てつじゅ)	広西省に産し、六十年に一度咲く事から、あり得ない話
311	觸破	(しょくは)	【道元の遺言】突き破る
312	流泉作琴	(りゅうせんさくきん)	水のせせらぐ幽かな（かすか）音を琴の調べとする—自然法爾の消息—
313	競春華	(きょうしゅんか)	春、花が競う様に咲いている
316	照顧脚下	(じょうこうきやつか)	足元を注意せよ
317	東風解凍	(とうかいかいとう)	春風が氷を溶かす、春が近いです
318	百折不撓	(ひやくおれふとう)	不屈の闘志
320	仁者壽	(じんしゃじゅ)	【論語】仁徳有る者は仁に安んじて憂える事が無いから長寿である
321	学然後知不足	(まなんでしかるのち、たらざるをしる)	【呉譲之模刻】
322	好学為福	(がくをこのんでふくをなす)	【呉譲之模刻】
323	立春大吉	(りっしゅんたいきち)	春の季語・何かいい事有りそうな・・・・
324	長相思	(ちょうそうし)	相手を思う事
325	三餘	(さんよ)	雨の日・夜の時間・冬 読書を楽しむ三つの時間（私の室号：三餘亭）
326	日々是精進	(ひびこれしょうじん)	いつも精進しましょう
327	生涯一学生	(しょうがいいちがくしょう)	吉川英治氏の座右の銘
328	身土不二	(しんどふじ)	体と土（環境）は一つと言う意味で、四里四方で育った物を食べ生活するのが 健康に良いと言う考え方=廻文
329	雪月花	(せつげつか)	雪・月・花 日本人に流れる四季をめでる優雅な心を言う
330	寿	(じゅ・ことぶき)	祝いの言葉・祝い